

福岡県保健環境研究所の建設地

みやま市にある「保健医療経営大学敷地」に決定!!

服部誠太郎福岡県知事は、2月8日(火)の臨時記者会見で、老朽化が進んでいる「福岡県保健環境研究所」の建設地について、みやま市の保健医療経営大学跡地に決定したと発表しました。

福岡県は、人と動物と環境の県税制を一体的に守る「ワンヘルス」を実践する中核拠点として整備することを目指しています。

福岡県によれば、保健医療経営大学は2023年3月に閉校する見通しで、敷地が約10万㎡と広く、現存の建物を活用することなどで建設費の抑制や4世や工期の短縮が見込まれることも選定の理由となった、とのことでした。

服部誠太郎知事は、記者会見で「**今後は、新しい保健環境研究所が人と動物の健康と環境の健全性に関する課題に分野横断的に取り組むワンヘルスセンターの中核として、人獣共通感染症対策や薬剤耐性菌対策に関する先進的な調査研究、また、専門人材の育成等を進めていく考えです。**」と述べられています。

17版 2022年(令和4年)2月9日 水曜日 西日本新聞

みやま市移転の県保健環境研究所 防疫や温暖化対策強化

県は8日、感染症や環境分野の調査研究を行う保健環境研究所(大宰府市)を建て替えに伴い、みやま市に移転すると正式に発表しました。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大や地球温暖化を踏まえ、防疫や気候変動に関する研究、専門人材の育成を強化する。

建設地は、来年3月に閉校する同市瀬高町の保健医療経営大学の跡地、敷地約10万平方メートルが所有されており、県に無償譲渡する。

大学の校舎を管理棟などとして活用し、建設費の抑制や工期短縮を見込む。開所時期は未定で、県は今後必要な施設や機能を盛り込む基本計画を策定する。

現在の研究所は研究者ら65人が勤務。細菌やウイルス、大気や水質などの調査試験に取り組んでいる。薬50年近くが経過し、老朽化が課題となっていた。

動物由来とされるコロナの流行で、人と動物の共通感染症対策や環境保全を一体的に考える「ワンヘルス」の理念が注目される中、県は新研究所をワンヘルス実践の中核拠点と位置付け、感染症が動物から人に広がるメカニズムなどの研究にも取り組む。服部誠太郎知事は記者会見で「大学や研究機関などと連携を図ってワンヘルスの知見を深めた」と述べた。

みやま市の松嶋盛人市長は「施設の職員などさまざまな人が市を訪れ、地域経済の活性化、関係人口の増加などで地方創生につながることを期待する」とのコメントを出した。

(黒石規之、立山和久)

地域再生推進法人に古民家再生協を指定

県初、知事に活動報告自治体を補充する立場で

「ワンヘルス」

人と動物の健康、環境保護解決に一体的に取り組む「ヘルス」の理解を深めるプログラムが12日、オンライン形式で開かれる。県などで行う実行主催。参加無料。

米スティーリ大名教授のカ・ジョンソン氏、作家でナリストのデビッド・クアが、人と動物の絆や生態系テーマにそれぞれ基調講演。講師として、森林浴・森林の第一人者で医師の李嗣林浴の健康効果などを語る

2022年2月9日(水) 西日本新聞朝刊

2022年2月9日

福岡ワンヘルス協議会・事務局